



北は、年の暮れも迫った12月の末に箕島高校の後輩である元阪神の高山から連絡を頂き「野球を続けたい高校生がいるので一度見てもらえませんか」と言われ「もう既にセレクションも終わってるし来年のメンバーも決まっている」ので最初は断ったのですが、半ば強引に押され箕島高校のグラウンドで高校生に交じってセレクションを行いました。

終わった後の面談でも、母親に促されながら話をする姿には、幼さを感じながら純朴な少年の姿でした。ただ、入部後は世間知らずというか「遅刻や反抗的な態度」で会社から処分をくらい、夜遅くに母親と家を訪ねて来て、一厘に刈上げた坊主頭で「反省しながら涙ぐむ姿」や「練習を体調不良で休んでのドンキ事件や練習中の態度」に切れた、野口勝道先輩から「本気の鉄拳制裁」や私生活でのトラブル等、野球以外での話題に事欠きませんでした。

それでも「無邪気」というか「自分の事なのに我関せず」と言った感じで「遅くまで自主練習を頑張っていました」本当は野球で嫌なことを忘れようと頑張ってたのかも知れませんね。

内野手に限らず、捕手や外野手にも積極的に挑戦し、入部から4年目に外野手として、初めて規定打数に到達し3割を超えるなど、ベールース杯、都市対抗予選で活躍し、奈良県知事杯では「最高殊勲選手賞」を獲得するなどの活躍をし、レギュラー確保かと思うと、何故か自分の持ち味である、右打ちを修正しては、フォームを崩すなど、波に乗れずにいました。今年の高砂大会決勝戦での、延長タイブレークで放った右中間への逆転打は、北のならではの「美しい右打ちのフォーム」で「2度目の最高殊勲選手賞」を授与しましたね。

母親に促されながら話をしていた「幼くて無邪気」だった北が、長きにわたり球友会を支えてくれ、8年の歳月を経て、本当にいい青年に変身してくれました。これからもさらに磨きをかけていい大人になって下さい。8年間永きにわたり本当にご苦労様でした。



「幼さと無邪気」
北伸司選手
(平成23年入部)